

富山市長 藤井裕久 No.24 「雨 | にみる日本人の感性

桜の開花宣言が日本列島を北上するころ、「今週 は曇りや雨の日が多く、菜種梅雨が続くでしょ う。」という天気予報をしばしば耳にする。中学校 の先生が、降り止まない雨の中で咲く校庭の桜を 眺めながら、こんな天気を「菜種梅雨」というのだ と教えてくれた。菜種梅雨とは、菜の花が咲く3月 中旬から4月上旬にかけて、ぐずついた梅雨のよ うな天気が続くことをいうのである。

さて、日本には「雨」ひとつをとっても四季折々 に、また雨の降る状態によっても、実に多彩で情緒 あふれる豊かな表現がある。季節による雨の呼び 名をみると、春に降る雨を春雨や催花雨などとい うこともある。おおよそ6月頃(旧暦の5月頃)の 梅雨時に降る長雨は五角雨、夏の夕方に突然激し く降るのが夕笠、秋にしとしとと降り続く雨を秋 家や教園、今にもみぞれや雪に変わりそうな冷た い冬の雨を氷雨などと呼ぶ。

また、雨の状態を表したものでは、急に短時間で 激しく降る群扇やにわか雨、小降りの雨を小雨、風 を伴う風雨、雷を伴う雷雨、細かく降る雨を小糠雨 や霧雨など、一説によると雨の呼び名は実に400以 上あると言われている。実に多様な表現である。

さて、「雨」にまつわる数多くの俳句や短歌も、日 本の豊かな自然や人々の活き活きとした営みを表 現し、時代を超えて今も多くの国民に愛されている。 松尾芭蕉の俳句[五月雨を あつめて早し 最上川] や、与謝蕪村の「秋雨や 水底の草を 踏わたる」な どは俳壇や歌壇には縁遠い自分でも覚えがあるも のだ。また、越中ゆかりの歌人である大伴家持の和歌 「この見ゆる 雲ほびこりて との曇り 雨も降らぬ か 心足ひに」や、石川啄木の短歌「雨に濡れし 夜 汽車の窓に 映りたる 山間の町の ともしびの色」 なども、言葉の意味や時代背景を調べながら、作者 の気持ちや日にした風景、当時の暮らし向きなど に思いを巡らせるのも実に楽しいものである。

そもそも日本人は、古より自然への畏怖の念を 持ち自然と共生してきたがゆえに、「雨」や「風」と いった自然を構成する要素を感じたままに実に 様々に表現し、豊かな感性を育んできた。そして、 日々の暮らしの中で育まれてきた日本人の豊かな 感性は、先人によって長い歳月を経て俳句や短歌、 絵画などの芸術や文化にまで高められ、今も私た ちの心の中に息づいているのである。その豊かな 感性こそ、私たちが未来を担う子供たちに継承し てゆくべき大切な宝物ではなかろうかと思うので ある。



雨に濡れる桜の木

5月12日 金~13日 出に、富山 市で、「〇〇富山・金沢教育大臣

〇に入る文字は?

答「OO」

はがきかEメールで、答と郵便番号、住所、氏名、年齢、連 絡先(電話番号かメールアドレス)と「広報クイズ応募」と書 いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ(1人1通)。 広報とやまに対する意見・感想もお待ちしております。

締め切り▶ 5月17日欧(必着) 国 kouhou-01@city.toyama.lg.jp

品▶500円分の図書カード(抽選で5人)

当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます。

前月の答え 特等席

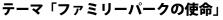
前月の応募総数 226件(正解数225件)



とやま情報局

5月28日(日)11:45~

放送局 KNB北日本放送(1ch)



ニホンライチョウ、ツシマヤマネコ、熱帯地域に暮らす 鳥たちなど、絶滅の危機に瀕する動物の現状や、希少な生物 を守るファミリーパークの取り組みについて紹介します。

・広聴⇒とやま情報局)

富山市の人口・世帯数(対前月比)【令和 5 年 3 月31日現在】人口…407,542人(-751人) 世帯…184,071世帯(+261世帯)

新しく仲間入りした

ツシマヤマネコのメイ